

令和4年度（2022年度）  
第72次印旛地区教育研究集会  
外国語研究部 提案資料

## 「書く活動・話す活動を通じた自己表現力の育成」

印西市立船穂中学校  
英語研究部

## 1. 研究主題

「書く活動・話す活動を通じた自己表現力の育成」

## 2. 学校および生徒の実態

千葉ニュータウン中央駅から車で5分の場所にある本校は、ニュータウン地区と旧農村地区とが共生する、伝統と活気に満ちた学校である。印西市立高花小学校と印西市立船穂小学校の2校の卒業生からなる。全校生徒190名、各学年2学級、特別支援学級が2学級の計8学級の小規模校である。「夢と希望と感動のある学校」を学校教育目標としている。目指す生徒像は「①自ら進んで学習し、自分の考えを表現し、学び合える生徒、②健康や安全に努め、進んで体力を高める生徒、③正しい判断力と強い精神力を持ち挑戦する意欲を持つ生徒、④思いやりの心を持ち助けあうことのできる生徒」である。

生徒は落ち着いており、生徒会を中心とした行事や学校行事への取組が積極的で、数々の感動場面を創出するパワーを抱いている。学習面では、落ち着いて授業に臨んでいる。与えられた課題に対して意欲的に取り組む生徒が多い。ALTは常駐しておらず、週2日JTEとともに指導する。習熟度の差が大きく、英語に苦手意識を感じている生徒が多い。そのため、英語への興味・関心を高めながら基礎基本の定着を図るとともに、習熟度の高い生徒には応用力も身につけさせていきたいと考える。それと同時に、相手と積極的にコミュニケーションをとろうとする態度も高めていきたい。

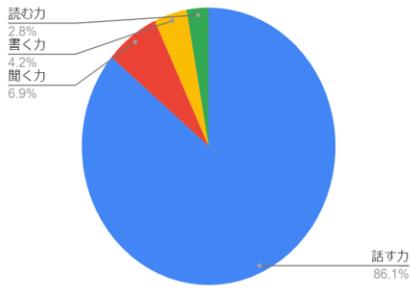
以下は、昨年度の県標準学力テストの結果である。

	聞くこと	読むこと	話すこと	書くこと
本校	74.8	68.3	80.6	60.5
県平均	74.0	65.9	78.7	61.4

標準学力テストでは、「読むこと」「話すこと」は2ポイント程度高いが、「書くこと」に関しては県平均を下回っている。“英語を読んだり、話すことはできるが、書けない”生徒がいることがうかがえる。文法力をさらにつけさせると同時に自分の気持ちを文字で表す活動を積極的に取り入れながら、英語を書く習慣をつけさせたい。また、論理的な文章の書き方を指導することで、検定試験や高校入試にもつながる活動になるのではないかと考える。

生徒の英語の「書くこと」「話すこと」への意欲を調査するべく以下のアンケート調査を昨年度4月に行った。

(1) 将来、英語に関してどのような力を身につける必要があると思いますか。

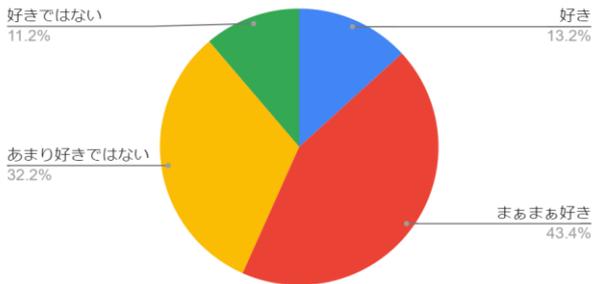


話す力	86.1%
聞く力	6.9%
書く力	4.2%
読む力	2.8%

(2) (1)の質問に対して、それはなぜですか？

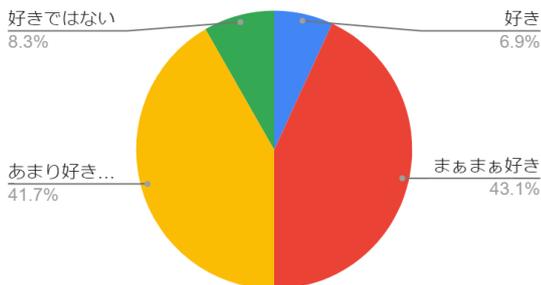
外国の人と交流したい	62.9%
進学・就職に有利だから	17.7%
将来役に立つから	11.3%
その他	8.1%

(3) 「英語を書く」ことは好きですか。



好き	13.2%
まあまあ好き	43.4%
あまり好きではない	32.2%
好きではない	11.2%

(4) 「英語を話す」ことは好きですか。



好き	6.9%
まあまあ好き	43.1%
あまり好きではない	41.7%
好きではない	8.3%

(5) 「英語の力がついた」と感じるのはどんな時ですか。

テストの点数が上がった時	37.5%
英文が読めた時	18.1%
英語を正しく聞き取れた時	16.7%
英語が話せた時	15.3%
単語が書けるようになった時	8.3%
あまりない	2.8%
その他	1.4%

アンケートの結果から、生徒は「話す力」を伸ばしたいと考えている生徒が多いことがわかる。そして、コミュニケーション能力を高め、将来は英語を通じて外国の人と触れ合ったり、異文化に触れてみたいと前向きに考えている生徒が多い。「書くことが好きか」や「話すことが好きか」という質問には半数以上の生徒が、「好き」「まあまあ好き」と答えている。「聞くこと」「読むこと」が受動的な活動とするならば、「書くこと」や「話すこと」は能動的な活動であり、自分から英語を使って思いを伝えたり、コミュニケーションを図りたいと考えている生徒が多いことも分かる。

英語の力がついたと感じるときは、テストで高得点を取った時が4割程度と「書く力」が向上した時に英語力の向上を感じる生徒が多いことがわかる。「話す力」と「書く力」を伸ばすことで、生徒のニーズに応えることができると考える。また、「話す」「書く」活動を通して、「読む」「聞く」の力をともに伸ばしていきたい。

### 3. 主題設定の理由

学習指導要領の改訂（平成29年度告示）により、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの資質・能力を育成し、「外国語を使って何ができるようになるか」を明確にすることが求められている。また、新たに設定された領域である「話すこと〔やりとり〕」では、簡単な語句や文を用いて即興で話すことも重視されている。即興性を養うには、語彙力や文法事項の定着、日頃の授業の中で即興性を鍛える練習が必要である。

中学校では、小学校で扱う600～700語程度の語に加えて、1600～1800語程度を新たに扱うとされた。また、言語材料については仮定法のうち基本的なものなどが新たに扱われることとなった。これまで以上に幅広い表現力を身につけることが求められる。一方、生徒が身につけなければならない英単語や文法事項が格段に増えた。パフォーマンステストや小テストをこまめに行うことで、英語を書いたり、話したりする活動への苦手意識を減らしていきたい。スピーキングテストやライティングテストでは、ループリックを生徒に事前に示すことで、どの点に気をつけ練習すればよいかを明確にさせるなどの工夫をしていきたい。また、やり取りの活動を通して、仲間と協力しながら進めることでお互いを高め合う活動につなげていきたい。

日常的な話題や社会的な話題について取り上げることで、自分の知っている単語で簡単な文を作り自分の気持ちを伝える練習をさせる。段階的な指導を通じて、まとまりのある内容を話すことが

できたり、文章を書いたりする力を養わせ、自己表現力の向上を目指す。以上のことから本主題を設定した。

#### 4. 研究仮説

仮説1 英語を書く習慣を身につけることで、語彙力や文法力が付き、英語の表現力を高めることができるであろう。

仮説2 身近な話題を設定し、英語を話す機会を増やすことで、対話に必要な知識・技能を身につけるとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養うことができるであろう。

#### 5. 研究の内容

##### (1) 仮説1より

##### ア. 英語ノート作り (資料1)

教科書の本文と英単語をノートに書かせ、新出単語は意味調べをさせる。英語を正確に・速く書く力を身につけさせることを目的に行った。

##### イ. 黒板に本文を書く

教科書を扱う授業の際に、生徒に書かせた。クラスのみんなが見るとめ字の大きさや正確さに気をつけるよう指導した。

##### ウ. BINGO ゲーム・単語テスト (資料2)

- ・ 単元ごとに実施する20問程度のテストである。テストの前に出題される BINGO ゲームを行うことで生徒は楽しみながら英単語を復習し、つづりを正確に覚えさせた。
- ・ BINGO ワークブックを使い、単元にはまだ出てこない単語を覚えテストを行う。語彙を増やす活動。

##### エ. Dictation 活動 (資料3)

- ・ 新出単語だけを確認し、CD を聞いて空欄に単語を書かせる。スペルがわからなければ、カタカナでも構わないことを伝え、英語が苦手な生徒も活動できるよう工夫をした。

オ. Writing Test

2年 Lesson 2 Our Energy Sources (資料4)

3年 Tips 2 for Writing 英語で手紙を書こう (資料5)

Tips 6 for Writing 自分の考えを具体的に伝えよう (資料6)

- ・事前にテーマを与え、1週間後にテストを行う。ライティングテストなので、事前に教員への確認はせずに、単語や使う文法を自分で調べさせた。事前にループリックを示し、評価のポイントを伝え実施した。

(2) 仮説2より

ア. Q&A (資料7、動画)

帯活動

- ・ワークシートの質問に対し3A (Ask・Answer・Add) を意識しながら Q&A 活動を行った。

イ. Speaking Test (やりとり)

2年 Theme “Olympic”

Theme “Free time” (動画)

3年 Lesson 4 Sports Legends

Theme “Olympic and Paralympic” (資料8)

Theme “Impressive Lesson” (資料9)

- ・テーマに対して、ペアで2年生は1分、3年生は1分半話し続けるテスト。会話が途切れないようつなぎ言葉や、応答の表現を事前に指導した。英語でなんといえよいかかわからない生徒にはワークシートを通じて質問を書き、次回の授業の練習でその表現が使えるよう支援した。ループリックを事前に示し、評価基準を生徒に伝え実施した。

ウ. Speaking Test (発表)

3年 Tips 7 for Speaking 即興で自分のことや考えを伝えよう。(動画、資料10)

- ・事前に6つのテーマを示し、カードを引いてそのテーマについて3文以上で自分の考えを話すテスト。

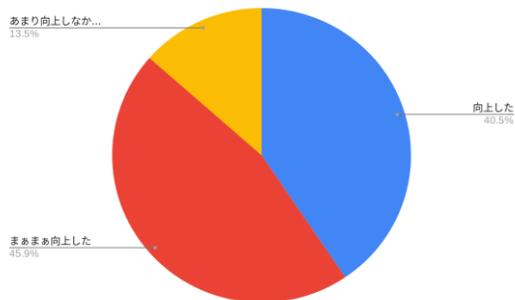
- ・Project 2 英語で卒業スピーチをしよう (動画)

## 6. 研究の成果と課題

以下は、1年間の取組を経て2月に行ったアンケートの結果である。

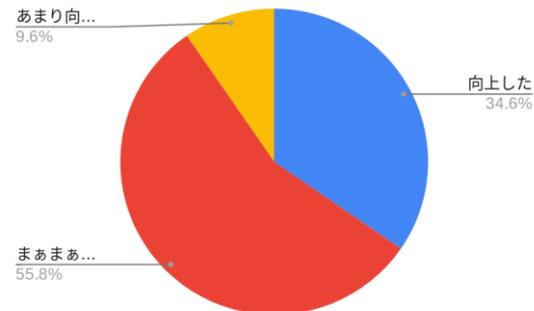
(1) 学校の授業を通して、“書く力”は向上したと思いますか。

1年



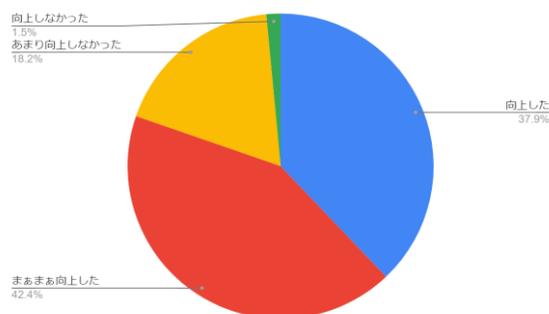
向上した	40.5%
まあまあ向上した	45.9%
あまり向上しなかった	13.5%
向上しなかった	0.1%

2年



向上した	34.6%
まあまあ向上した	55.8%
あまり向上しなかった	9.6%

3年



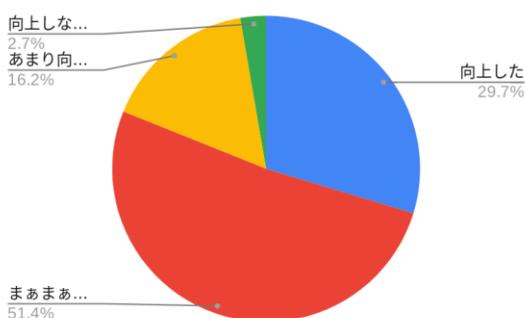
向上した	37.9%
まあまあ向上した	42.4%
あまり向上しなかった	18.2%
向上しなかった	1.5%

(2) “書く力”において、どのようなことができるようになりましたか。

英作文が書けるようになった	40.6%
単語が書けるようになった	25.0%
自分の伝えたいことが書けるようになった	18.8%
英文が読めるようになった	4.7%
英文を覚えた	4.7%
書くスピードが上がった	4.7%
できるようになっていない	1.6%

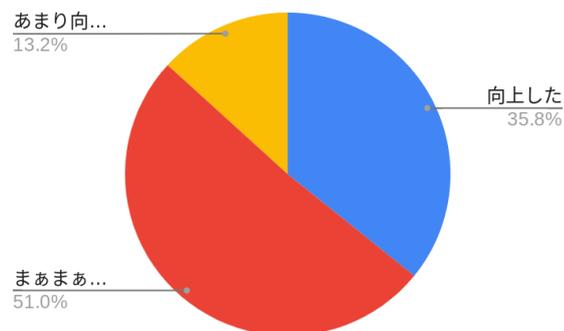
(3) 学校の授業を通して、“話す力”は向上したと思いますか。

1年



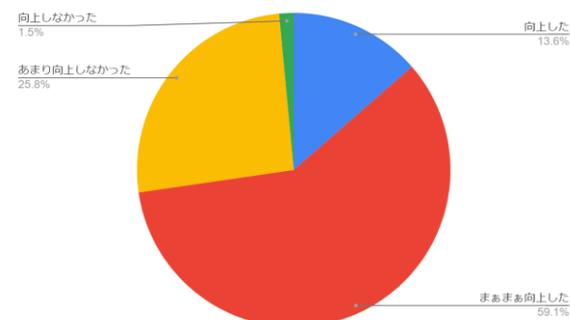
向上した	29.7%
まあまあ向上した	51.4%
あまり向上しなかった	16.2%
向上しなかった	2.7%

2年



向上した	34.6%
まあまあ向上した	55.8%
あまり向上しなかった	9.6%
向上しなかった	0%

3年



向上した	13.6%
まあまあ向上した	59.1%
あまり向上しなかった	25.8%
向上しなかった	1.5%

(4) “話す力”において、どのようなことができるようになりましたか。

英語でコミュニケーションがとれるようになった。	25.0%
自分の考えを英語で伝えることができるようになった	15.8%
英語が少し話せるようになった	13.2%
リスニング力が向上した	13.2%
イントネーションや抑揚を意識して話すことができるようになった	11.8%
英語の面接で自信を持って話すことができた	5.3%
その他	10.5%

### (1) 仮説1

#### 《成果》

- ・ 8割以上の生徒が書く力が”向上した”、“まあまあ向上した”と答えており、英語を書くことに対して苦手意識を減らすことができた。
- ・ 「話すこと〈やりとり〉」のスピーキングテストを通じて、原稿を英文で作成したことで、自分の伝えたいことを英語で書く機会が増え、自己表現力の向上につなげることができた。
- ・ 本文・単語写しや単語テストの活動を通じて、英語を正確に・速く書く力を身につけさせることができた。

#### 《課題》

- ・ 題目を与え、即興で書かせようとする手が止まる生徒が多い。日本語であっても考えが浮かばないという生徒の声があった。英語だけの問題ではなく、日頃から社会的な問題は身近なことに対して自分の考えを持つ習慣が必要である。
- ・ テーマに対して単文になりがちで、まとまりのある文章を論理的に書くという点では改善が必要である。手紙の書き方や理由をつけて具体的に書かせる文章の書き方を指導するとともに、語彙力の向上・文法事項の定着を図っていきたい。

### (2) 仮説2

#### 《成果》

- ・ 「話すこと〈やりとり〉」では、ペアで協力しながら活動し英語を話すことをためらわず活動する生徒が多かった。
- ・ テーマに対してまとまりのある文章を話すことで、書く力や聞く力も相乗的に高めることができた。

#### 《課題》

- ・ 「話すこと〈やりとり〉」の活動では、ペアと協力しながら意欲的に活動している様子が見られたが、「話すこと(発表)」になると、急に自信を無くし、間違えることが恥ずかしいという気持ちが強くなるのか、自信を持って話す生徒が少なかった。

- ・カードを引き、そのテーマについて話す活動では、黙り込んでしまう生徒が多かったため、事前にテーマを提示し、考えておくよう指示を変えた。即興で自分の考えを話すという点では、課題が残った。毎回の帯活動で、即興で話す活動を継続する必要がある。

### (3) まとめとして

「書く活動」に関しては、本文・単語写しや英単語テストなどをこまめに行い、英語を書くことを日常化させたことで、最初はあまり書けなかった英文が少しずつ文法内容を覚えながら力をつけ、3年生になるとスペルミスがなくなり、簡単な文章であれば書くことができるようになったと答えた生徒が多かった。単にたくさん英語を書かせるのではなく、教員がノートの内容やテストなどで評価し、必要であれば直させる指導をしたことで改善していったのではないかと考える。

「話す活動」では、最初はなんと表現したらよいかわからず、諦めてしまう生徒も、その表現を伝えてあげることによって自分の気持ちを伝えようとする生徒が増えた。発表ややり取りで使われる表現の形がある程度決まってくると英語を話すことが苦に感じなくなる生徒もいた。少しの支援や繰り返し学習で生徒の意欲や力を伸ばすことができるということがわかった。

「書くこと」「話すこと」の力の向上に焦点を当てて指導してきたが、その活動を通して「聞くこと」「読むこと」の他の技能もバランスよく力を伸ばすことができた。

両方の活動において、即興性という部分では課題が残った。プリントやテーマを与え即興で話したり、書く活動をさせたが、黙り込んでしまったり、手が止まってしまう生徒が多かった。本校の生徒の実態を考えると難しいと感じた。生徒に達成感を感じさせることを最優先に考え、事前に準備をさせる必要があった。

生徒に “即興性”を養うためには、授業の中でどのような活動が有効だと思うか”。というアンケートに対して以下の回答があった。

- ・事前に英文を考えずに、お題だけ用意して2人ペアや3・4人程度のグループを組んで、お題に沿って即興で話し合えば即興性が身につくと思います。他にも、自分のことについてスピーチをする練習をすれば良いと思います。
- ・即興性を身につけさせるには、語彙力や文法の定着のもと、テーマを与え1分間で即興で話す活動を繰り返し練習したり、英語の映像を見せて大まかな内容を理解させたり、相手に自分の考えを伝える活動を増やす必要があると感じた。
- ・お題を出し、すぐに文や内容の構成を考えさせてスピーチをすること、イラストを見て会話を成り立たせる英作文問題、生徒同士にコミュニケーションをとらせること、などその場で考え、発表し、沢山のアイデアを与え、経験を得ることで即興性が養われると思う。
- ・ビデオ通話などを使って、細かな打ち合わせ無しで実際に外国の方と話をする。お題の書かれたカードをいくつか用意して、引いたカードに沿った内容を即興で考えてスピーチをする。

今回の課題を改善するため、現在は、帯活動としてイラストを見せたり、与えられたテーマについて1分間即興で話す活動を行っている。今回の研究を通して生徒に達成感を感じさせることを忘れず、そのために生徒の実態に合わせて工夫し活動を行わせることで、生徒は少しずつでも確実に力をつけていくということを学んだ。これからも国際社会の中で大いに活躍する人材を育成するために研鑽に励んでいきたい。